

# 神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490  
 編集 「月報」編集委員 FAX (078) 361-4539  
 振替口座 01110-2-10517

2012年2月

## 顕現節

### 老シメオンの喜び

～被献日にあたって～

主よ、今こそあなたは、お言葉どおり この僕を安らかに去らせてください。

わたしはこの目であなたの救いを見たからです。(ルカ 2:29-30)

司祭 ミカエル 小南 晃

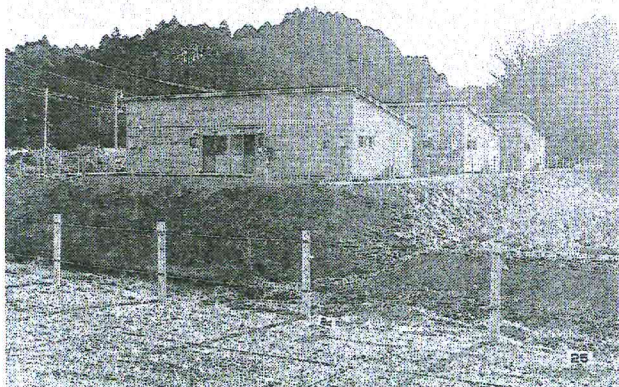
1月18日(水)から1週間、福島県の小名浜聖テモテ・ボランティアセンターに行ってきました。

現在、同センターの活動の中心は、仮設住宅に住んでおられる福島原発事故によって避難された方々への支援です。そしてメインとなる活動は「ほっこりカフェ」の開催ですが、これはお互いにほとんど知らない者同士が住む仮設住宅において、互いに交わりを深めて、避難生活を支え合うコミュニティーを作っていくための支援と言えます。

#### 先の見えない苦しみ

仮設住宅に避難されている方々の苦しみは、「一体、いつ頃、自分の家に帰れるのか?」「帰ったところで生活できるのか?」、そうした自分たちの生活の先が見えないことです。家と故郷を失い、避難先を転々としながら「先の見えない苦しみ」に置かれているのです。

そして、この故郷を失った苦しみは、イスラエルの民も経験したことでした。アッシリアによって強制移住させられ、またバビロン捕囚により、国を失う苦しみと悲しみ



福島県いわき市渡辺町屋野仮設住宅

を味わいました。しかし、やがて帰還する喜びを与えられました。それでも栄光の時代はもはや戻っては来ませんでした。異邦人が支配する、言わば先の見えない苦しみの時代に置かれたのでした。そうした中で、人々はメシアを待望したのでした。

#### 救いの兆しに喜ぶ

2月2日は「被献日」です。「モーセの清めの期間が過ぎた時、両親は幼な子を主に献げるため、エルサレムに連れて行きました(ルカ 2:22)。」降誕日から40日目となる被献日が記念するのは、そのように幼子イエスが神に献げられたということです。

この時、シメオンという老人が

神殿で幼な子イエスに会いました。彼は信仰篤く、正しい人で、聖霊から「メシアに会うまでは決して死なない」と告げられていました。彼は幼な子に会うなり、メシアであることを知り、「シメオンの頌」と呼ばれる冒頭の聖句を語りました。それは、約束のメシアを目にすることができた以上、もういつ死んでもいいという、大変な喜びに溢れた言葉です。しかしこの時、彼の見たメシアとは全くの幼な子でしかありません。しかしながら、その幼な子イエスの内に、神様は確かに私たちを顧みてくださっている、その救いの兆しを見て、彼はここまで喜びに満たされたのでした。

#### 救いの喜びとは

具体的な、また、御力に溢れた救いの業がなされる以前であっても、それが必ず与えられることを確信できる時には、希望と喜びに溢れることになるでしょう。それは、神様は決して私たちをお見捨てにはならない。愛してくださっており、必ず救ってくださるという確信でしょう。そして、先の見えない状況でも、その神の愛と救いを信じた時、希望と喜びを持つことができるのです。

今、先の見えない状況に苦しんでいる人々がいる時、神様が私たち自身の信仰を強めてくださり、そうした方々に神の愛と救いを伝える器として頂けますように、共に祈り求めたいと思います。

#### 定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式  
 " 9時15分 教会学校  
 " 10時30分 聖餐式・説教  
 午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会  
 土 午前10時30分 教会掃除  
 (ご奉仕をお願いします)